体験は自分を変える

星川　凜（山形県立山形西高等学校２年）

１．実際の変化と新たな気づき

小学校教員体験セミナーと学びのフォーラムに参加してみて，よかったことや気づいたことがたくさんありました。

小学校教員体験セミナーに参加して，普段勉強する意味を見いだすことができました。目指す教員のイメージが浮かぶようになったからです。そのため，より普段の勉強に身が入るようになりました。さらに，自ら教育に関する本や記事で情報を求めるようになったと感じています。
先生の仕事や声がけ，子どもたちの授業については，今まで生徒の視点からでしか見たことがありませんでした。事前オリエンテーションで，何をどのように見ればよいか学んだので，体験の際の収穫が増えました。小学校では教科担任制が導入される動きがあるため，小中学校間での連携はどのようになっているのか見てみたいと思いました。

学びのフォーラムでは，「できる」「考える」「遊ぶ」とは，の問いに対して，はじめは答えることができませんでした。現在は議論を経て，自分なりの言葉に落とし込んだ答えを漠然とではありますが表現できそうです。今後，様々な立場の人と意見を交換したり，自分で経験を重ねたりするにあたって見えてくると思います。また，議論で自分の考えを話すときに，具体例として自身の経験や勉強法，学校での様子等があげられていました。よって自然と参加者同士での情報交換の場にもなっていました。初対面の相手に興味を示して問いかけ，ただ世間話をするということだけでもコミュニケーション能力が培われていくと感じました。「答えを見つける」結果を目的としたものよりも，それまでのプロセスを重視する，という趣旨の学びが学校生活では総合の時間以外ではまだ少ないと思うので，こういった活動が学校でも増えていってほしいです。

２．教職に興味をもってもらうには

教職の魅力創造プロジェクトのようなセミナーに参加するといった「体験」は，自分の頭の中で考えることに及ばないと思いました。当たり前かもしれませんが，実際に参加してみて，このことを改めて強く感じたのです。

子どもたちの体験のきっかけをつくるには，現場の先生の協力も不可欠であると思います。

西高の二年次生は，教職を希望する人が多いです。その要因は，セミナーに積極的に参加していることが大きいのではないかと考えました。お便りを手にした先生が，「志望が小学校教員じゃなくてもいいから，少しでも興味があるなら参加して」と強く勧めてくださいました。興味がある生徒を集めて説明や手続きも手厚くしてくださいました。

また，教職に関わる人との縦あるいは斜めの関係を構築することも必要であると思いました。セミナー等に中学生にも声をかけて参加してもらい，ほかの参加者に話を通しておき，身近な話から教員に興味があるのかを問いかけて，その人の考えを外に引き出してみるのも効果的だと思います。高校受験を控える中学生にとって，高校生や大学生，大人の先輩との関わりは非常に大きな影響を与えるでしょう。

本会議に参加し，改めて教員の道に進みたいという気持ちが強くなりました。これからも勉学に励みつつ，様々な体験を通して気づいたことを行動に表していきたいです。